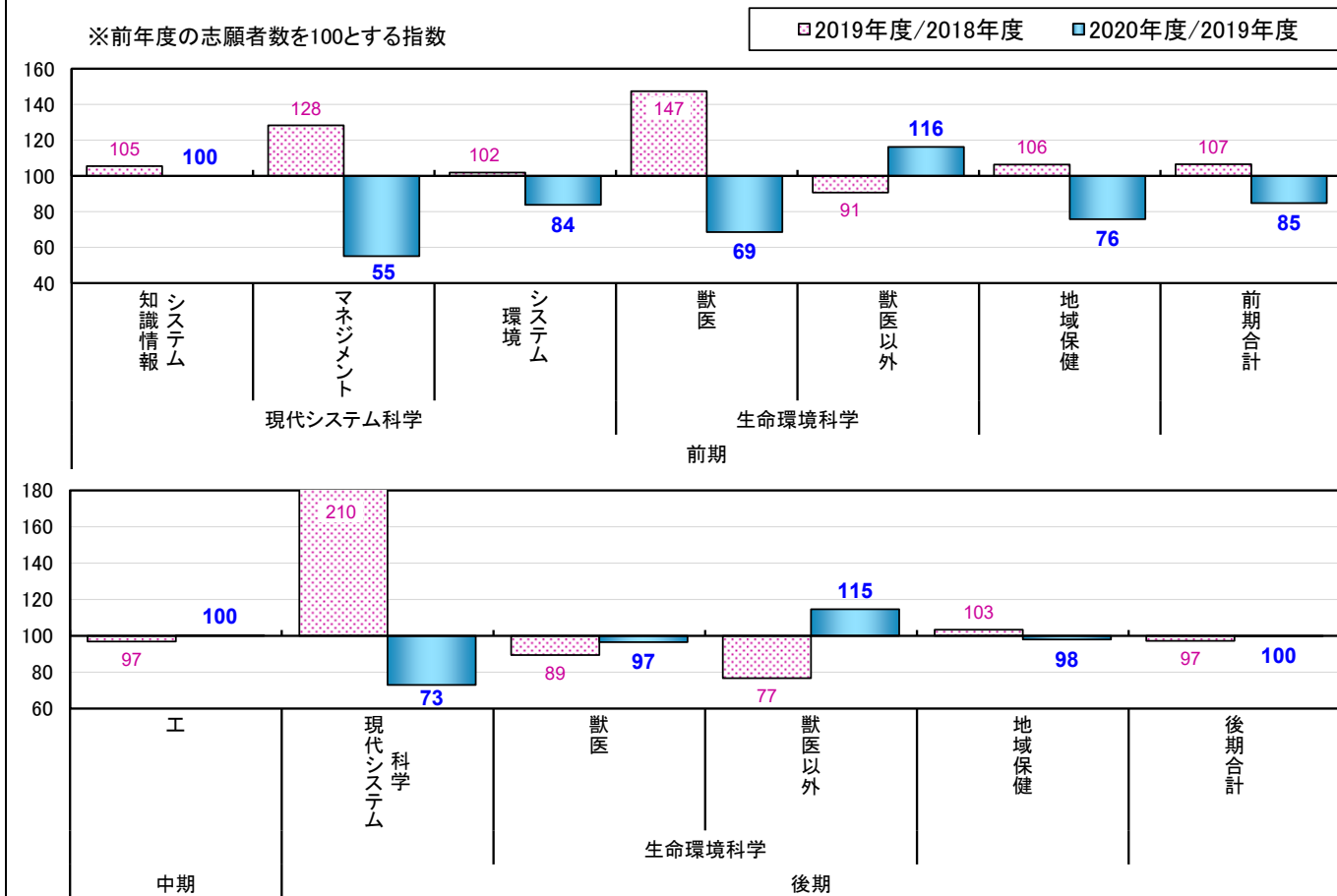


## 2020年度入試状況分析【国公立大】

**大阪府立大：前期が大幅減少、中期・後期は前年度並 前期：-333人 中期：+17人 後期：-3人**



**COMMENT** ※ ( ) 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続増加の反動で333人(85)の大幅減少。工のみ募集の中期は17人(100)の微増だが、2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。学類別では、(物質化学)(103)のやや増加で2年連続増加。(機械)(101)は2年連続減少の反動はなく前年度並。(電気電子)(97)はやや減少で2年連続減少。後期は3人(100)の微減で2年連続減少の反動はなかった。

＜前期日程＞

- 現代システム科学(71)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学類・方式別では、(知能情報システム)は、前年度と同一志願者数だったが、他の募集単位は減少。特に、センター試験で理科不要の(マネジメント)(55)はセンター試験の英語、数学I・Aの難化から敬遠されて半減近い大幅減少。(環境システム-英語論文型)(79)も大幅減少。
- 生命環境科学(107)は、やや増加。学類別では、(獣医)(69)が大幅減少、2011年度以降、前年度の反動による増減が継続。(緑地環境科学)(135)は大幅増加で3年連続増加。(応用生命科学)(107)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。(理)(115)は大幅増加、(理)の募集単位別では、〈物理重点〉(187)、〈化学重点〉(175)が激増、〈生物重点〉(64)が大幅減少。
- 地域保健(76)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学類・専攻別では、(総合リハビリテーション/作業療法)(128)のみ大幅増加、他の4つの学類・専攻はいずれも大幅減少。

＜後期日程＞

- 現代システム科学(73)は、前年度倍以上だった反動で大幅減少。
- 生命環境科学(111)は、2年連続減少の反動で増加。学類別では、(緑地環境科学)(138)、(理)(119)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(応用生命科学)(89)は前年度大幅減少に引続き、2年連続減少。(獣医)(97)はやや減少で3年連続減少。
- 地域保健(98)は前年度並。学類・専攻別では、(総合リハビリテーション/作業療法)(76)が2年連続減少と目立った。